

# ミニテスト

## 1 観察要領及び応急処置

### (観察編)

○ 病院への搬送依頼を受けた患者宅に到着しました。患者さんに近づきながら観察を開始しましょう。傷病者の外見観察で見べき項目について（ ）を記入してください。

1 ( ) 2 ( )

3 ( ) 4 ( )

○ 意識状態はどのように観察しますか？（ ）内を記入してください。

1 傷病者の（ ）をやさしく叩きながら、大きな声で呼びかける。  
傷病者が会話することができれば主訴を聞く。

2 視線は傷病者の（ ）を観察する。

○ 呼吸状態はどのように観察しますか？（ ）内を記入してください。

1 傷病者の（ ）の高い位置から、目で見て（ ）と  
（ ）の動きを確認する。  
呼吸の確認に（ ）秒以上かけない。

2 一般的な成人の呼吸数は1分間に（ ）～（ ）回である。

3 呼吸の確認をするときは（ ）の必要はない。

4 ( )の呼吸がなければ( )をはじめる。

○ 皮膚を観察することでどのようなことがわかりますか？（ ）内を記入してください。

1 皮膚が（ ）している状態は、脱水時の状態の1つである。

2 ( )や( )は発熱時の特徴的な状態である。

## 1 観察要領及び応急処置

### (気道確保、人工呼吸、異物除去編)

○ 気道確保を必要とするのはどのような状態のときですか？ ( ) 内を記入してください。(気道とは呼吸の際に空気の通る道のことで、気道確保とはこの通路を開通させることをいいます。)

- 1 ( ) に障害がある場合
- 2 意識は無いが、( ) はある場合
- 3 呼吸運動があっても、ヒューヒュー、ゴロゴロというような音が聞こえ、( ) からの空気の出入りが弱い場合
- 4 意識に障害を起こした人は、( ) を起こし、呼吸困難になることがある。

○ 気道確保の方法について、( ) 内を記入してください。

- 1 頭部後屈あご先挙上法は、片方の手の( ) を( ) に当て、もう一方の手を額に当てる。
- 2 十分な呼吸をしていながら意識に障害がある傷病者は、( ) をとる。
- 3 意識に障害がある傷病者は、仰向けにしていると嘔吐物などにより( ) する危険がある。

○ 人工呼吸をするのは、どのような状態のときですか？ ( ) 内を記入してください。

- 1 ( ) 呼吸がない場合。
- 2 呼吸が不十分な場合で、( ) ような呼吸をしている場合。
- 3 ( )、( ) の動きが不明瞭で、かつ小さい場合。

○ 呼気吹き込み人工呼吸法の実施要領について、( ) 内を記入してください。

- 1 健康な人の場合は、安静時の呼気にも ( ~ ) %の酸素が含まれている。
- 2 人工呼吸を行う場合、まず ( ) を確保し、鼻をつまむ。
- 3 吹き込み量は、( ) が上がるのが見てわかる度で、吹き込み時間は約 ( ) 秒である。
- 4 感染防止のため、人工呼吸実施時には ( ) の使用が推奨される。

○ 異物除去の方法について、( ) 内を記入してください。

- 1 背部叩打法は、傷病者の ( ) の間を手の付け根で強く数回叩く。
- 2 背部叩打法は、( ) の有無、年齢、性別に関係なく実施できる。
- 3 腹部突き上げ法は ( )、( ) や ( ) には実施してはならない。

## 1 観察要領及び応急処置

(心肺蘇生法、AED、止血法編)

○ 胸骨圧迫を実施するのはどのような状態のときですか？ ( ) 内を記入してください。

( )・( ) がない場合。

○ 成人(16歳以上)に対する胸骨圧迫の実施要領について、( ) 内を記入してください。

1 胸骨圧迫を行う場合は、傷病者を( )にする。

2 胸を約( ) cm垂直に押し下げるように圧迫する

3 1分間に( ) ~ ( ) 回のリズムで圧迫する。

4 一人で実施する場合も二人で実施する場合も、人工呼吸の技術と意思がある場合には胸骨圧迫( )回、人工呼吸( )回の割合で行う。

○ 小児(1歳~16歳未満)に対する胸骨圧迫の実施要領について、( ) 内を記入してください。

1 圧迫する位置は( )。

2 ( )、若しくは( )で圧迫し、胸の厚さの約( )の深さまで押し下げます。

3 胸骨圧迫( )回に対し、人工呼吸( )回の割合で行います。

○ 心肺蘇生法(人工呼吸、胸骨圧迫)の中止時期について、( ) 内を記入してください。

( ) や( ) が認められたときは胸骨圧迫を中止する。

○ AEDを使用する場合の注意点は何か？（ ）内を記入してください。

1 AEDは（ ）、（ ）が、いずれもない傷病者に使用する。

2 AEDを使用するときは、正確な心電図を解析させる必要があることから、必ず車両を（ ）させる。

3（ ）等の医療機器が埋め込まれていたら、出っ張りを避けて電極パッドを貼りつける。

○ 除細動を実施した後、「ショックは不要です」と指示が出た場合、どのようにしたらよいですか？（ ）内を記入してください。

1 直ちに、（ ）を再開します。

2 傷病者の状態に変化がでてきた場合は、（ ）の確認をする。

3 普段通りの呼吸にもどれば、身体を横に向け（ ）にする。

○ 止血法について（ ）内を記入してください。

1 人間の血液量は、成人で体重の約（ ）%、もしくは体重1Kgあたり（ ）mlといわれている。

2 一般的に体内の血液の（ ）%が急速に失われると（ ）という重篤な状態になり、（ ）%を失えば生命に危険を及ぼすといわれている。

3 出血時の止血法として、出血部位を直接圧迫する（ ）を基本とする。

4 止血の際に、救助者が傷病者の（ ）に直接接触すると（ ）の危険性がある。

## 2 消防機関との連携

- 事業実施の基本原則について、( ) 内を記入してください。
  - 1 事業の( ) を十分に自覚し、関係法規を遵守すること。
  - 2 ( ) の危険又は症状の( ) が予測され、緊急に( ) その他の場所へ搬送しなければならないと認められる患者等は、搬送の対象としない。
  - 3 患者等からの依頼に対する( ) 及び患者等の( ) の向上に努めること。
  
- 搬送事業者が、救急車を要請しなければならない場合について、( ) 内を記入してください。
  - 1 患者等から( ) があつた時点において、患者等を緊急に医療機関へ搬送する必要があると判断した場合。
  - 2 要請された場所に( ) した時点において、患者等を緊急に医療機関へ搬送する必要があると判断した場合。
  - 3 患者等の( ) において、緊急に医療機関へ搬送する必要が生じた場合。
  
- 特異事案報告を消防局に届け出なければならない場合について、( ) 内を記入してください。
  - 1 患者等を搬送中に容態変化があり、( ) を実施した場合
  - 2 患者等を搬送中に容態変化があり、( ) を要請した場合
  - 3 患者等を搬送中に( ) を発生させたとき
  - 4 ( ) の患者を扱った場合で他の患者を搬送するのに影響を及ぼす恐れがあるとき
  
- 乗務員の責務について、( ) 内を記入してください。
  - 1 乗務員が業務を行う場合は、( ) を携帯しなければならない。

2 乗務員は（ ）年に1回以上、患者等搬送乗務員定期講習を受講しなければならない。

○ 乗務員が救急隊へ引き継ぐ際に必要な伝達事項について、（ ）内を記入してください。

1 救急車が到着するまでに行った（ ）の内容

2 救急車が到着するまでの患者等の（ ）

3 持病があれば、その（ ）名、治療を受けている（ ）名、  
（ ）名。

### 3 体位管理要領

- 体位管理上の留意事項について、( ) 内を記入してください。
  - 1 体位の選定に当たっては、傷病者が( ) 姿勢を原則とする。
  - 2 傷病者がどうすれば楽になるかを聞き、( ) を与えない安定した体位とする。
  - 3 傷病者の( ) が楽にできるような体位とする。
  - 4 ( ) が安静になるような体位とする。
  
- 体位を変換するときの留意事項について、( ) 内を記入してください。
  - 1 事前に傷病者に説明し、( ) や( ) を与えないようにする。
  - 2 家族、関係者等に協力を求め、安静かつ( ) に行う。
  - 3 体位を変換することにより、( ) を起こさないようにする。
  - 4 容態が悪化したときは、早期に( ) し、応急手当を実施する。
  
- 保温を実施する上での留意事項について、( ) 内を記入してください。
  - 1 ( ) など体温が異常に上昇しているときは保温を行わない。
  - 2 意識がある傷病者に対しては、保温の効果を確認するとともに、( ) と安心感を持たせるように配慮する。
  - 3 身体が濡れている場合はタオル等で十分拭き、( ) を除去してから保温する。
  - 4 悪寒、体温低下、( ) を認めたときには積極的な保温が必要。



## 4 搬送法

- 傷病者を搬送する上での留意事項について、（ ）内を記入してください。
  - 1 傷病者を搬送する前に、必要な（ ）を行う。
  - 2 （ ）を極力防止する方法で安静に搬送する。
  - 3 搬送中も（ ）を継続する。
  - 4 （ ）による搬送は、担架等が使用できない場合など、ごく短い距離の搬送に用いる
  
- 徒手搬送の留意事項について、（ ）内を記入してください。
  - 1 支持搬送は、（ ）、頭痛、呼吸困難、胸部痛を訴えている傷病者には用いない。
  - 2 背負い搬送は、（ ）、骨折や内臓損傷がある傷病者には用いない。
  - 3 横抱きの搬送は、主に（ ）や小柄な傷病者が対象となる。
  
- ストレッチャーで搬送する場合の留意事項について、（ ）内を記入してください。
  - 1 必ず（ ）で傷病者の身体を固定する。
  - 2 ストレッチャーを持ち上げる場合は、ストレッチャー全体が（ ）となるように持ち上げる。
  - 3 車両への収容時及び車両からの搬出時は細心の注意を払い、（ ）・（ ）に努める。

## 5 消毒及び感染防止

- 感染症について、（ ）内を記入してください。
- 1 感染症は、法令によって（ ）類から（ ）類感染症、（ ）感染症、（ ）感染症に区分されている。
  - 2 （ ）類、（ ）類、（ ）感染症、（ ）感染症の患者を扱った場合は、消防局へ特異事案報告書を提出する。
- 感染防止のために気をつけなければならないことを簡記してください。
- 1 感染を防ぐには、（ ）の励行、（ ）・（ ）・（ ）等の着装による感染源への接触防止が有効である。
  - 2 二次感染を防ぐには、傷病者を扱った都度、車内及び資器材の（ ）を確実に実施する。
  - 3 傷病者の症状から感染症が疑われる場合は、搬送先医療機関の医師から情報を収集し、必要に応じて（ ）等と連携を図る。
- 消毒剤の種類とその特性、消毒上の注意事項について簡記してください。
- 1 消毒用エタノールは、多くの細菌、ウイルス、（ ）に有効である。
  - 2 クレゾール石けん液は、（ ）に対しては無効である。
  - 3 次亜塩素酸ナトリウムは、強い殺菌力を有し、とくに（ ）に対して有効である。